１５	豊川	豊川市立代田中学校	イドタ　ヨシコ 氏名　井戸田　善子

分科会番号	１０	分科会名	家庭科教育

研究題目

身近な生活から課題を見つけて、多面的・多角的に考え、根拠をもって選択し、自分の生活に生かそうとする生徒の育成

研究要項

１　はじめに

現在、ライフスタイルの多様化に伴い、人々の消費行動も日々変化している。インターネット通販の普及やキャッシュレス決済の拡充から、より手軽に物資やサービスが手に入りやすくなった。しかし、以前よりも多様化した購入方法や支払い方法は、利便性や利得が向上しただけでなく、消費者トラブルも増加している。これからの生活を安心して送っていくために、消費生活においても「自分で見極めて選択していく力」が不可欠である。消費生活の中で、多量の情報を収集し、その情報が正しいのか判断した上で、家族や自分にとって最適なものを選択するためには、物事を多面的・多角的に捉え、選択したことに対し明確な根拠をもつことが必要となる。

実践を始める前に、本学年の生徒を対象に以下のような消費生活についてのアンケートを実施した。

質問内容	回答(一部)
項目①　消費生活に興味がありますか。	興味がある･どちらかといえばある　78%
項目②　必要なものを自分で購入しますか。	はい　69%
項目③　購入する時に重視するポイントは何ですか。 （複数回答可）	価格　85% 好み　62% 使いやすさ　54% 原産(生産)国　33% 環境　9% 処分方法　7%
項目④　購入時に失敗やトラブルにあったことはありますか。	ある　67%

以上の結果から、生徒は消費生活について興味があり、多くの生徒が必要なものを自分で購入する経験を日常的に行っている。一方で、購入する際に価格や好みを重視する傾向にあり、環境問題や購入後の処分方法については重要視していないことがわかった。また、日常の授業では、自分で生活を工夫することが大切であるとわかっていても、実際の生活と結びついていない生徒も多く、具体的にどのようなことを考え、工夫すればよいかの知識や技能が乏しい現状があった。

本題材では、身の回りの消費行動に着目し、これからのよりよい消費生活について考えていく。消費生活のあらゆる場面で起こる出来事から、生活を豊かにするためには、どんなことを考えて選択をしていくとよいか、根拠を基に最適な方法を考えていく。

実生活と学習が結びつきにくい生徒たちのために、題材を通して模擬家族を設定することで、イメー

ジがしやすくなり、自分事としてとらえて考えるだろう。そして、ワークシートの思考ツールを活用して自分の考えを可視化し明確にすることで、仲間に伝えやすくなり、考えを広げたり価値観を共有したりすることができるだろう。そして、仲間との話し合い活動を通して、物事を多面的・多角的に考え、授業の終末には、実際はどうするかの視点をもって振り返りをさせる。以上の活動を繰り返していくことで、身近な生活があらゆる問題に結びついている事実に気づき、実生活の中においても、自分の消費行動を深く考えて行動していく姿を期待したい。よりよい消費生活の実現に向けて、自分や家族の生活に必要なものの選択・購入について、主体的に課題の解決に取り組んだり、生活を工夫したりして、消費生活と環境の関連性にも気づき、これからの自分の生活に生かそうとする生徒を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

2　研究の構想

（1）目ざす生徒像

〇身近な生活から課題を見つけ、多面的・多角的に考えることができる生徒

〇根拠をもって選択し、自分の生活に生かそうとする生徒

（2）研究の仮説

《仮説①》　家庭生活を見つめる場を設定し、家族の様々な立場の視点から解決方法を考えられるよう手立てを工夫すれば、多面的・多角的に考える力が育つようになるだろう。

《仮説②》　振り返りの場において、振り返りの仕方を工夫すれば、根拠をもって選択し自分の生活に生かそうとすることができるだろう。

（3）研究の手立て

〈仮説①の手立て〉

手立て①　模擬家族の設定

模擬家族から消費生活の課題を見いだし、家族の生活や思いを汲んで解決策を検討する展開を位置付け、イメージしやすくする。

手立て②　ワークシートの思考ツール活用した、話し合い活動

思考ツールを活用した話し合い活動の場を設定し、仲間と意見交流することで考えを広げたり価値観を共有したりしながら多面的・多角的に考えることができるようする。

〈仮説②の手立て〉

手立て③　振り返り活動の工夫

OPP シート（1 枚ポートフォリオ評価）に振り返りを行うことで、学びを蓄積していく。振り返りには視点を与え、自分の生活を重ね合わせて根拠をもって考えることを繰り返し行うことで、生活に生かそうとすることができるようにする。

（4）題材構想（9時間完了）

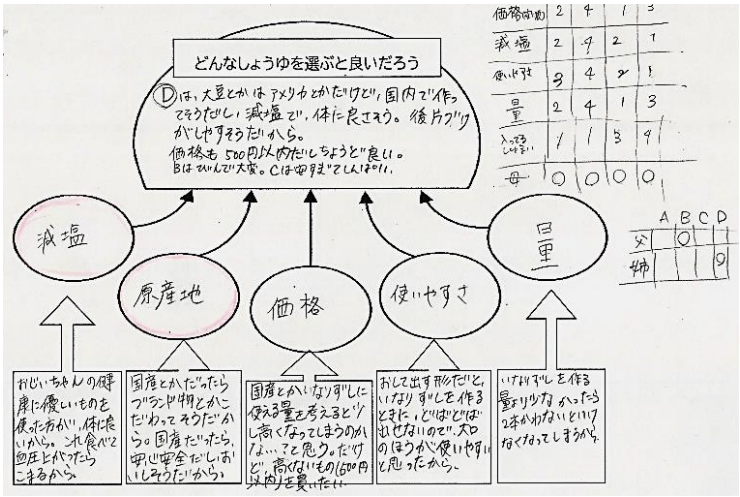
段階	学習の流れ（学習活動）	・教師の支援・**手だて（ゴシック）**
出合う 深める 活かす	**〇生活にかかるお金の収入と消費のバランスの大切さを知る。** どうする得側家のお金の使い方①② ・電気代や水道代は生きていくのに必要なお金だ。 ・食費は外食を減らせばもう少し安くなりそうだ。 ・余ったお金は貯金したらよいと思う。 **〇それぞれの支払い方法、購入方法の利点や問題点を調べる。** ・スマホ決済は、スマホがあれば買い物ができる。 ・現金は使った額が分かりやすいし、どこでも使える。 ・通販はいつでも買えるから便利。 ・店舗で実物を見て買うと安心できる。 **〇情報を活用し、暮らしの目的に合わせた選び方を考える。** どうする祖父母のおもてなし料理③④ ・国産の材料を使っている物は安心できる。 ・地元で作ったしょうゆを知ってもらいたい。地産地消にもなる。 ・おもてなしをするなら原料にこだわった高級しょうゆを使いたい。 ・しょうゆは他の料理でも使えるから、大容量がお得。 ・近いからコンビニがいい。 ・イオンは他のものを買うついでに行けるし、ポイントも貯まる。 ・少額だし、現金で払うのが安心。 **〇姉のトラブルから、なぜ消費者被害に巻き込まれたのかを考え、解決策を話し合う。** どうする姉の化粧品トラブル⑤⑥ ・知らない人についていったのがいけなかった。 ・契約書にサインしたのがいけない。 ・親に相談すればよかった。 ・契約したから支払わなければいけない。 **〇消費者の権利と責任について理解し、人と環境に優しい消費生活について考える。** どうする父のタブレット端末の故障⑦ ・消費者が安さを求めすぎると健康被害につながることもある ・買い物をするときは、表示やマークも見てみよう ・私たちが商品を選ぶことで、消費者としての責任を果たすことができる。 **〇自立した消費者となるための消費行動について、考えをまとめて発表する。** どうするこれからの消費生活⑧⑨ ・買い物に行く前に、ネットなどで情報を収集して、表示やマークをよく確認して買うようにする。 ・本当に必要か考えて、お金も無駄なく使えるようにする。	**・収支のバランスの大切さに気付かせるために、思考ツール（クラゲチャート）でお金の使い方を目的ごとに考えさせるようにする。** ・金銭を計画的に管理するためには、今後を見通して収支の調整をすることが大切であることに気づくようにする。 **・食品の購入場面における、購入方法と販売方法の利点と問題点をわかりやすくするために思考ツール（PMI）にまとめて比較しやすくする。** **・自分の意見に根拠をもたせるために、OPPシートにそれぞれの販売方法・支払い方法の特徴を踏まえ、どのように活用するか記入させる。** **・目的に合わせた商品選択をするために、思考ツール（クラゲチャート）に記入し、優先順位を明確にする。** ・話し合い活動から情報の収集や整理をする中で、環境や健康に配慮した視点も重要であることに気づくようにする。 ・得側家の状況と目的から、それぞれの商品選択の利点と問題点を考えながら検討するよう助言する。 **・OPPシートに振り返りを記入する際、なぜその商品を選択したのか、根拠もあわせて考えるように助言する。** **・様々な立場から原因や対処法を考えさせるために、若者による消費トラブル事例や消費者の声から商品開発が行われた事例を提示し、思考ツール（クラゲチャート）に多面的な面からの考えを記入できるようにする。** ・トラブルの対処方法を共有して確認する。 ・未成年と成年の法律上の責任の違いなどについても、具体例を挙げて確認する。 ・消費者を守る法律についても具体例を挙げて確認する。 **・購入後の商品が故障した場合、適切な消費行動を家族の立場から考えるために、思考ツール（バタフライチャート）に意見をまとめさせる。** **・話し合い活動をし、より多くの意見を聞くことで、視野を広げよりよい選択に必要な情報を収集・整理し、契約前にしっかり考えることが大切であることに気付くようにする。** ・環境や社会に配慮しているか、継続して実践できるかの視点から考えるよう助言する。 **・活動の振り返りをして自己の学びの深まりを実感させるために、OPPシートに学習後のまとめを記入させる。**

3　研究の実践

（1）　仮説①について（　どうする祖父母のおもてなし料理　3・4/9　）

題材を通して模擬家族『得側家』を設定し、生活のさまざまな場面を想定して、消費生活のトラブルについて考え、最適解を見つける学習を行った。得側家は会社員の父、パート勤めの母、高校３年生の姉、中学２年生の得側くんの４人家族で、遠方に祖父母が暮らしている設定である。第３時は、コロナ禍でなかなか会えなかった祖父母が久しぶりに得側家へ遊びに来るので、豊川市の名産であるいなり寿司をふるまうための醤油選びをするところから始まった。どこの家庭にもありふれた調味料で、生徒たちにもなじみのある醤油だが、自分で醤油を選んだ経験の少ない生徒も多く、

「醤油なんてどれも一緒でしょ」「醤油に違いなんてあるの」など、いなり寿司を作るためには、どんな醤油を選ぶとよいか、視点が定まりにくい生徒もいた。そこで、模擬家族のそれぞれの立場から、価格や量など醤油選びへのこだわりを提示した。そして、そのこだわりを満たした醤油を選ぶための視点を思考ツールの「クラゲチャート」にそれぞれ記入させた。（資料１）生徒たちは得側一家のそれぞれの立場に立って、醤油の表示や容器、値段などを見比べながら、ワークシートに整理を行っていた。普段、醤油の表示を手にとって見ることの少ない生徒たちも、細かな表示まで見比べながら「いなり寿司以外でも、お母さんが料理に使うから、大容量で安いものがいいよ。」「お姉さんが祖父母の健康のことを気にしていたから、減塩の醤油を選ぶといいと思う。栄養成分表を見てみよう」などの意見が出てきた。



資料１　クラゲチャート

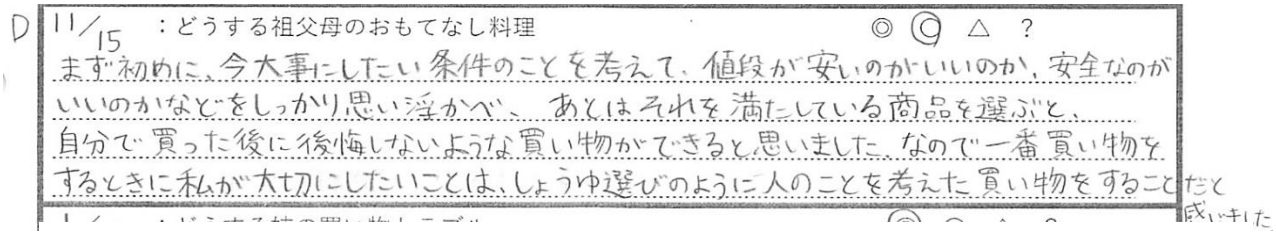
資料２　話し合いの様子

そして第４時で、それぞれのグループごとに「中学生の得側くんが１本だけ選んで買ってくるとしたら、どの醤油を選ぶとよいだろう」をテーマに、クラゲチャートを見ながら話し合い活動を行った。（資料２）最初に、生徒たちは自分の意見として、自分が得側くんの立場ならどの醤油を購入するかを考え、意見交換を行った。「父がこだわりの原料を使った醤油がいいと言っていたけど、高すぎるし、購入する店も限られている。自分が得側くんだったら、いつも使っている地元産のものを近くのスーパーで買ってくるといいと思う。」「今回は、せっかく遊びに来てくれた祖父母の健康を考えてあげたい。減塩の醤油がいいのではないか。」「いなり寿司を一度食べただけで、塩分を摂りすぎて不健康になるとは思えない。原材料にこだわることも健康のためになるのでは。」など、クラゲチャートの足に書き込んだ視点を詳しく説明しながら、思いを共有したり、新しい考え方を見つけたりして、活発に話し合いながら醤油選びを行っていた。さらに最適な醤油選びの方法として生徒たちは、食生活の学習で学んだ加工食品の表示の読み取り方の知識と、第２時で学習した販売方法・支払方法も比較しながら、商品の品質と価格は見合っているか、中学生が買い物をする場合、販売方法や支払方法は適切かなど確認し合っていた。

（２）　仮説②について（　題材を通して、ＯＰＰシートによる振り返りの工夫　）

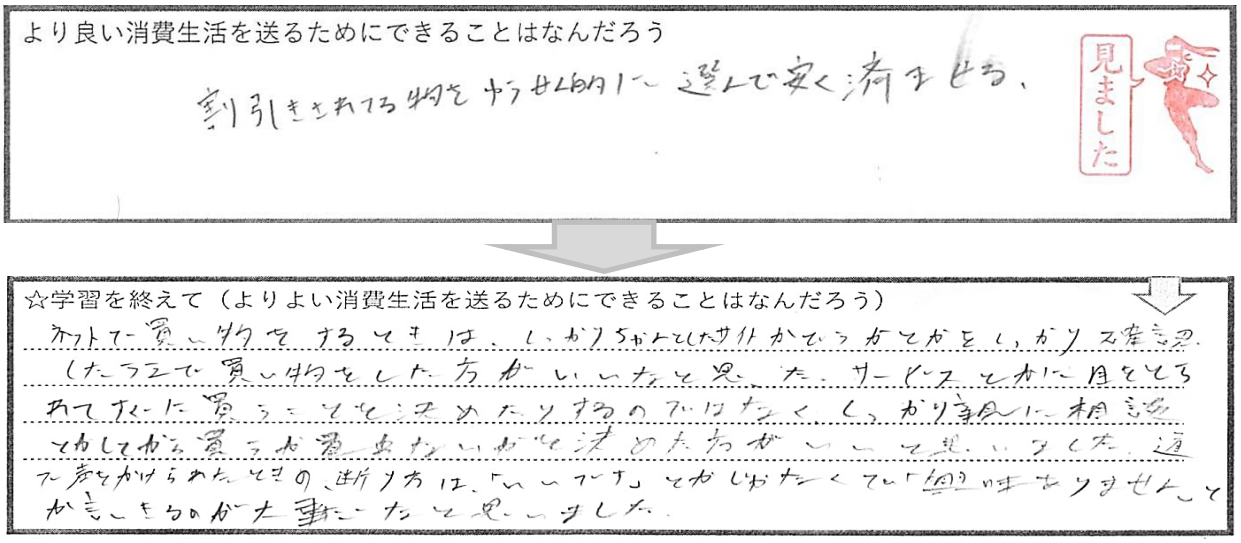
第４時では、グループでの話し合い活動の後、それぞれのグループでどのような話が出たのか、学級全体でも共有するために、全体での話し合いを行った。家族の中でも立場が変われば、こだわりが異なることや、同じ視点をもっていても、解釈の仕方に違いがあることなどを知り、生徒たちの考えは、学習前よりも深まっていった。最後に、ＯＰＰシート（1 枚ポートフォリオ評価）に自分ならこれからどんな選び方をしていきたいか」を記入させた。その際、クラゲチャートの視点や話し合い活動で出てきた理由を根拠として記入することとした。生徒たちは、改めて自分の生活と

重ね合わせてこれからの消費生活の在り方を振り返りに記入していった。（資料３）


D 11/15 ：どうする祖父母のおもてなし料理 ◎ ○ △ ？
まず初めに、今大事にしたい条件のことを考えて、値段が安いのがいいのか、安全なのがいいのかなどをしっかり思い浮かべ、あとはそれを満たしている商品を選ぶと、自分で買った後に後悔しないような買い物ができると思いました。なので一番買い物をするときに私が大切にしたいことは、しょうゆ選びのように人のことを考えた買い物をすることだと感じました

資料３　第４時の振り返り

この題材を通して、ＯＰＰシートには、学びの深まりが蓄積し、一目でわかるように工夫をした。はじめに、学習前の自分の姿として、「よりよい消費生活を送るためにできること」を書き出させた。消費生活という言葉にあまりなじみのない生徒も多く、「消費生活って何？」「お金を使うこと？」など、あまり実生活と結びつけて考えることができない生徒も見られた。そこから、得側家と身の回りの生活で起こる問題について考え、話し合いを行い、最後は自分の生活にフィードバックさせて振り返ることを繰り返し行っていくことで、考えが深まり、それを一目で確認しながら学習を進めていくことができた。そして、学習の最後に、学習後の自分の考えをまとめさせた。（資料４）


より良い消費生活を送るためにできることはなんだろう
割引きされてる物をよく考えて選んで安く済ませる。
見ました

☆学習を終えて（よりよい消費生活を送るためにできることはなんだろう）
お店で買い物をするときは、しっかりちがいとかをしっかり確認したうえで買い物をした方がいいなと思った。サービスとかに目をとられてなに買うかを決めたりするのではなくしっかり家に相談とかしてから買うか買わないかを決めた方がいいと思いました。道で声をかけられたときの断り方は、「いいです」とかいわないで「興味ありません」とかきっぱりが大事だなと思いました。

資料４　学習前と学習後の振り返り

始めは、消費生活について、値段が安ければよいと考えていた生徒が、題材の終わりには値段だけで決めず、確かな情報を確認してから購入するべきであるという考えをもつようになった。また、一人ですぐに購入を決めるのではなく、親などに相談してから購入するなど、消費トラブルを回避する知識を身につけることができた。

４．研究の成果

（１）身近な生活から課題を見つけ、多面的・多角的に考えることができる生徒について

事後アンケートでは、模擬家族の授業について、「とてもわかりやすい」３４％、「わかりやすい」６６％であった。多くの生徒が模擬家族を使って消費生活の課題を考えることで、「実際の体験談のようでわかりやすかった」「それぞれの人物などになりきって考えたり、身近な気持ちになれたりするためとても分かりやすいと思った」など教科書などで説明するよりも、実際の生活と結びつけやすく想像しやすく、課題解決に向けて取り組みやすかった。また「各人物の目線で消費生活について考えることができる」「その人の立場になって考えられる」「自分に置き換えやすく、考えやすかった」という意見があり、このことから、生徒たちはあらゆる立場や場面から、物事を多面的・多角的に捉え、考えることができた。学習を実生活と結びつけて考えにくい生徒にとって、模擬家

族を設定したことで、生徒にとってわかりやすく、自分の生活と重ね合わせて考えることができたという点において、手立ては有効であったといえる。

思考ツールを活用した話し合い活動については、思考ツールを活用することで伝えやすかったと回答した生徒が９割以上を占めた。理由としては「自分の書いたことを分類できたり、そこから発展させたりすることができるから」や「自分や相手の意見が一目でわかりやすかった。自分の意見をもって話し合いに参加できるので、きちんと伝えることができた。」という意見があり、普段の話し合い活動よりも思考ツールで考えを可視化してまとめておくことで、自信をもって仲間と共有することができた生徒が増えた。また、話し合い活動で自分の考えを深めることができたかという問いに対して９割以上の生徒の考えが深まったと回答した。理由として「他の人の意見を聞いて、新しい発見があったから」や「自分と違う意見も多くて、別の視点をもつことができたから」といった新たな視点や考えを見つけ、考えを深めることができた生徒や、「自分でまとめた意見を自分なりにわかりやすく話せて、みんながうなずいて聞いてくれたからうれしかった」「自分と同じ意見でも、少しの違いをより深め、自分の意見に吸収できたから」といった、同じ意見をもつ仲間と考えを共有することで、自分の意見により自信をもち、同じ意見同士でもさらに視点を増やして考えを深めることができた。

（２）根拠をもって選択し、自分の生活に生かそうとする生徒について

振り返り活動の場面では、思考ツールや話し合い活動を通して、生活を多面的・多角的に考えることができるようになった生徒たちが、それぞれの考えに具体的な根拠をもって考えることができた。OPP シートで１枚にまとめることで、学習してきたことが振り返りやすく、授業前に前時のことを確認し合う時にも、見やすく話し合いが円滑に行われていた。そして、自分の生活と重ね合わせて考えていく際に、根拠をもって選択していくことで、家庭科の授業の中だけにとどまらず、自分事として考えさせることができ、自信をもって自分の生活に生かそうとする意欲的な態度が見られた。振り返りに視点を与え、振り返りシートに工夫をすることは、今後の家庭生活の中で生かし、生活をよりよくしていこうをする気持ちを育てるのに有効であったと考える。

５．今後の課題

思考ツールは、今回クラゲチャート以外にも、ウェビングマップ、PMI シート、バタフライチャートなど、課題解決に合わせて最も適したものを使用した。自分の意見や情報を整理し、理由を明確にしたり、比較したりしながらメリットやデメリットを考えて話し合うために、思考ツールの活用は有効であったといえる。話し合い活動を通して、お互いの意見を聞くことで、課題に対する思いや考えを知ることができた。互いの意見を比較し、共感できる部分や相違点について、それぞれのよさを考えて深めていくことで、意見を受け止めてもらった安心感や価値観の違いを認め合うことができた。生徒たちは、さまざまな意見を聞き、多面的・多角的に物事を捉えようと考えを深めることができた。

一方で見えてきた課題として、思考ツールの活用は、考えをまとめることが苦手な生徒に対しては有効であったが、日頃から整理して話ができる生徒からは「思考ツールがなくても話すことができる」という声もあった。今後はさらに生徒の実態や場面展開に応じて有効な活用を検討していく必要がある。ＯＰＰシートの記入方法についても、根拠を書かずに結論のみを書いてしまう生徒もいるため、そのような生徒に対し、指示の仕方やシートの形式について、今後も検討を続けていきたい。